

当院の災害対策（透析中に災害訓練を試みて）

医療法人 博樹会 西クリニック

新井孝典 伊藤知美 一瀬ゆかり 嵯峨照子 山川淳一 西隆博

【目的】毎年1回、患者・スタッフ合同災害訓練（以下、訓練）を行っているが例年患者参加率が低い。全患者が参加できるよう訓練方法の見直しを行い評価したので報告する。

これまでの訓練方法

- ・防災週間の日曜日に参加希望者が集まって訓練を行っていた。
- ・災害時の一連の流れをスタッフがを行い、患者さんに見学してもらっていた。

今回の訓練方法

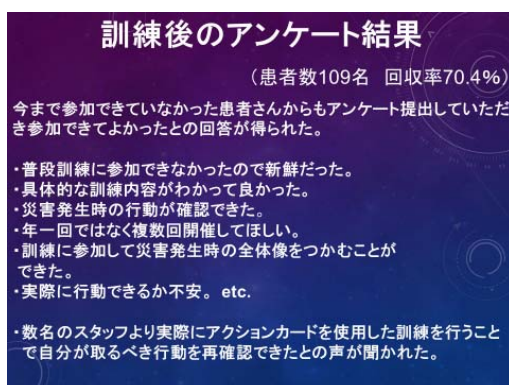
- ・透析試行中に訓練を行うことで患者参加型へ変更した。

【方法および対象】透析施行中に震度6強の地震が発生し透析継続が困難になる想定で透析を中止→緊急離脱→避難誘導までの訓練を施行し訓練後の患者アンケートより問題点の抽出を行った。対象は当院通院中の維持透析患者109名。スタッフは訓練中、アクションカードを使用し行動した。

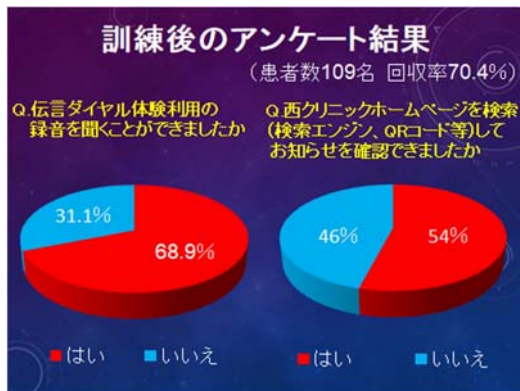


【結果】左のグラフが2019年度の訓練参加率で例年、20～30%の患者参加率で推移していたが、透析中に訓練を行うことで全患者が訓練に参加可能となった。患者・スタッフ共に災害時の対応がより現実的にイメージでき各々が必要な手順を学ぶことができた。

※2020・2021年度は新型コロナウイルス流行期のため動画視聴による訓練を行った。



今まで参加できていなかった患者からもアンケートを提出してもらうことができ「普段訓練に参加できていなかったのが新鮮だった。」や「具体的な訓練内容がわかって良かった。」など概ね訓練に参加できてよかったとの回答が得られた。



今年度より今まで行っていた災害伝言ダイヤル以外に聴力が低下した患者にも対応できるように当院のホームページを閲覧して被災状況を確認する訓練を追加したが、アンケート結果より災害伝言ダイヤルでの情報取得が出来ていない患者が31.1%、ホームページ閲覧による情報取得が出来ていない患者が46%いた。

災害伝言ダイヤルでの情報取得ができなかった患者とホームページ閲覧での情報取得ができなかった患者の主な理由として、視力・聴力の衰えや情報端末の使用が不慣れ・忘れていた・知らなかった・面倒くさい・忙しかった等であった。視力・聴力の衰えや情報端末の使用が不慣れな患者以外、できるのにやらなかった患者が多くいることが判明した。近年で最も甚大な被害を受けた東日本大震災以降、時間の経過とともに災害に対する意識の低下が懸念される。今後の対策として、災害を自らの問題として現実味を持ってとらえるために災害意識の啓発が必要と考える。災害意識の維持向上を目的として今まで毎年1回更新していた災害時に患者が携帯する透析指示書を3ヵ月に1回へ短縮して更新・配布するように変更した。毎年訓練後にアンケート調査し結果を院内に掲示していたが閲覧していない患者が多くいたため、本年度よりアンケート結果を冊子にして患者一人一人へ配布するよう変更した。また患者だけではなくスタッフの災害意識の維持向上を目的として、これまでは年1回だった避難器具を使用したスタッフ訓練を月1回へ増やし、なるべくすべてのスタッフが均等に参加できるようシフト調整を行い院内カンファレンスの時間に実施するようになった。

【考察】透析中に訓練をすることで全患者が参加可能となり患者・スタッフ共に災害時の対応がイメージできたが、訓練に興味を示さない患者も存在した。今後は訓練に興味を持ってもらうためのアプローチ方法の構築や視力・聴力の低下および情報端末操作の不慣れな患者への被災情報確認方法の再検討、全患者・全スタッフへの災害意識の啓発等が重要と考える。

【結語】今後も全患者が参加する訓練を継続することで机上の訓練では得られない災害時の臨場感を体験し患者・スタッフ共に災害に対する意識を高めていく。